

研究の経過と概要

「 自立をふまえて(どの子ども共に生き、共に育つ)
～一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方～ 」

1 研究のテーマについて

近年、東山梨地区の特別支援学級数は増えているが、1学級の在籍児童生徒数は少人数化し、障害は多様化重度化している。在籍・通級及び特別に支援を要する子供たち一人ひとりの障害の状況および発達段階に応じたきめ細かな支援を継続していくことが、共通の課題となっている。そのため、今年度も引き続き本主題を設定した。

学習会・授業実践・情報交換などを通して児童生徒の理解を深め、一人ひとりの実態に合わせた支援のあり方について研究を進めている。

2 研究の具体的内容

- (1)学習会
- (2)小部会別研究(授業実践, 教材研究, 情報交換, 実践発表)
- (3)情報交換

3 研究の具体的方法

- (1)講師を招いて学習会を行い、それぞれの学習内容について理解を深める。
- (2)小部会ごと児童の実態を考えた教材研究等を行い、個に応じた授業作りをする。
また、小部会ごと指導主事等を招いて授業実践を行う。
- (3)小部会ごと情報交換, 実践発表を行い、障害の理解や対応についての学習を深める。
- (4)各小部会の実践について情報交換し、共通理解を図ると共に学習を深める。

4 研究の経過

- ①5月 8日 ・研究計画について
- ②5月15日 ・研究計画の確認 ・授業者の決定 ・小部会決定
- ③6月 5日 ・第1回小部会別研究「2グループ」(授業案作り・教材研究)
- ④8月12日 【夏季学習会】
 - ・学習会テーマ「一人ひとりの実態をふまえた自立活動のあり方」
 - 講師:山梨県教育庁新しい学校づくり推進室
 - 副主幹・指導主事 岡 輝彦先生
 - ・第2回小部会研究 授業案検討
- ⑤8月30日【統一授業研】
 - 山梨・甲州知的部会 生活単元学習「買い物をしよう」
 - 授業者:八幡小 渡邊 光章
 - 指 導:かえで支援学校 伊波 美恵先生

自閉情緒・通常学級部会 自立活動「ボールで楽しく運動しよう」

授業者:加納岩小 三枝 剛

指 導:かえで支援学校 飯嶋多三恵先生

⑥10月 2日【秋季教研】

- ・研究授業のまとめ(研究授業の実践報告)
- ・第3回小部会別研究

(今後の予定)

- ⑦11月27日 ・県教研還流報告
 - ・第4回小部会別研究 (実践発表・情報交換)
- ⑧1月15日 ・第5回小部会別研究 (実践発表・情報交換)
- ⑨2月 5日 ・学習会
 - ・第6回小部会別研究 (実践発表・情報交換)
- ⑩2月12日 ・第7回小部会別研究 (小部会の総括)
 - ・部会の総括

5 報告書作成参加者

助言者 榊原 俊二教頭先生(日川小)
加納岩小 板谷 理恵 掛本めぐみ 三枝 剛
日下部小 窪川 純一郎 青柳 晴美 海野朱美 岡 京子 塚田志小美
後屋敷小 田邊真由美 守岡 志のぶ
日川小 腰巻笑里美
山梨小 保坂 穂波
八幡小 渡邊 光章
岩手小 廣瀬明子 津野千尋
牧一小 大沢 国雄
牧二小 沼田 豊子
三富小 古屋美知子
塩山南小 那口真知子 三枝直美 星英子 樋 美枝
奥野田小 相川 和彦 丸田 みどり
大藤小 武井敏江
神金小 清水新果 廣瀬 みどり
松里小 金子佐由美
井尻小 阿部かおり 蘆原 美海
祝 小 八巻 恵子
東雲小 名取 美和
大和小 滝島 正彦 大原 純子
勝沼中 小泉 昌彦
大和中 小石澤重人 富田 照也

知的障害学級における実践

山梨市立八幡小学校 あおぎり学級

授業者 渡邊 光章

I はじめに

本学級はA児(6年生男)1名が在籍している。算数科などで培った計算力を日常生活でどのくらい活かせるのかは実態を把握していなかったため、修学旅行先での出来事は私にとって衝撃的だった。「単元について」の児童実態の中でも触れられているが、一人で買い物をする経験もなく、決められたお金を渡されて自販機で買ったり、ゲーム機に硬貨を入れてゲームをする経験はあるようだった。人から聞いた話だけでなく、実際に確かめてから、単元を構成していく必要性を切に感じた。

II 生活単元学習指導案

1. 単元名 「買い物をしよう」

2. 単元について

3年前にあおぎり学級では野菜を育てて、おでんを作った。おでん作りの時には買い物に出かけて買ってきた。しかし、お金を使うときは私が一緒にそばにいて渡すようにしていたので、お釣りを考えながら支払うことなどの経験はしてこなかった。

3年生の時に、交流学級の社会科で買い物体験はしてきているがお釣りや金種を考えて支払うところまで意図的には学習してこなかった。

また、6年生になって、修学旅行で買い物に付き添った。お金の管理は教師が行い、支払う時に財布を渡した。的確にいくら出せばよいのかが、まだ理解できていない。とりあえず、大きなお金を出せばいいことは分かっている。私は見ていなかったのですが、引率していた他の教諭から、A君は自動販売機のお茶を買う時に困っていたというのである。150円のお茶を買うのに5円玉1つと10円玉1つを入れていた。「おれ、100円は使いたくないんだよな。」と言っていたそうである。その場は先生の手を借りて買うことができた。自動販売機で買うことの実験はあっても、お金を渡されて買う経験であって、自分で考えて自分で財布から出す経験がない。家庭での買い物経験も自販機にお金を渡されてコインを入れて買ったりとか、ガチャガチャというおもちゃが出てくる自販機での買い物、ゲームセンターでのゲーム機へのコインを入れるという経験が主なようである。

そこで、本単元では買い物をする模擬体験をしたり、買い物を実際に行う活動を取り入れたりして、将来、自分で買い物ができるようになる素地をつくれるようにしたい。電卓も使って、自分の計算を確かめるようにしたい。

買い物をしたときの様子をもとに書こうとする中心をはっきりさせ、会話文等を使い様子のわかる文章を書けるようにしたい。

指導にあたっては、できるだけ本人の考えを大切に解決できるように支援していきたい。合わせて、作文でまとめるときも会話文を取り入れて買い物の様子がよくわかるようにビデオを撮影して作文に役立てたい。

3. 児童の実態

あおぎり学級は6年生(A)が在籍しており、知的障害学級として以前から設立されている。6年生児童(A)の国語に関する読みは6年生の教科書を時々使っているが、3年生くらいである。漢字の書き取りは2年生までの漢字はだいたい書けるようになってきている。聴くことが苦手で、目からの情報や繰り返しによる指導により、理解できる。以前に比べると、交流学級でのトラブルも少なくなり、いじけることが少なくなってきた。お金の計算になると、これまでの算数の計算がうまく結び付かず、変な答えをすることが時々見られる。5円玉や50円玉などの数としての大きさが理解できていない。

4. 単元の目標

〈生活単元の目標〉

○ 買い物で品物の金額を計算しながら、買い物をすることができることを目指して実際に買い物を体験することができる。

〈国語科の目標〉

○ 買い物をしたことを基に書こうとする中心をはっきりさせ、会話文等を使い様子のわかる文章を書く。

〈算数科の目標〉

○ 3けたのたし算やひき算を使って代金やおつりを筆算したり、電卓で確かめることができる。

5. 指導計画(全11時間)

次	学習活動・主な内容	配時	ねらい
第一次「買い物に慣れよう」	第1時 ・飲料自動販売機の飲み物をいろいろな金種で買えるか、予想を立ててみる。	1	・自販機で売っている飲み物に対してどのような支払い方があるか、考えることができる。
	第2時 ・飲料自動販売機の飲み物をいろいろな金種で買えるか、試してみる。	1	・自販機で使えるお金は限られていることを知り、飲み物が買うことができる。
	第3時 ・1000円で買える買い物計画を立てる。 ・買い物の模擬体験をする。 ・自分の買ったものを整理し、買い方について検討する。	1 【本時】	・電卓を使ったり、買い物の計画を立てたりして、1000円以内で買い物模擬体験をし、買い物を振り返ることができる。

	第4時 ・	1	・自分の買いたいものを選んで全部でいくらになるか筆算したり，電卓で確かめたりしてみる。
第二次「買い物に行ってみよう」	第1時 ・市バスの運行表を調べ，行程を決める。 ・何をかうか，買い物の計画を立てる。	1	・行き帰りのバス時刻を決め，行程を決めることができる。 ・買い物計画を立てることができる。
	第2時 ・市バスを利用して駅まで行く。 ・スーパーで家から頼まれた買い物をする。 ・市バスを利用して駅から学校へ帰ってくる。	3	・公共のバスを利用する際，マナーを守ったり，支払ったりすることができる。 ・これまでの学習した体験を生かして家から頼まれた買い物をすることができる。
第三次「買い物に行ったことを作文でまとめてみよう」	第1時 ・買い物に行った時のことを作文で表現してまとめる。 ・ビデオや写真などから，そのときの生の様子を振り返り，作文表現に役立てる。 (振り返るときに，場面ごとにメモをさせる) ・買い物時のお金の出し方についてまとめる。 (これまでの学習を思い出してまとめていく)	3	・体験したことを思い出し，書くことの手をかりさせ，会話文を入れた文を使いながら，まとめることができる。 ・買い物時のお金の出し方についてまとめることができる。

6. 本時の学習

- (1) 題材 「買い物になれよう」
- (2) 日時 平成25年8月30日(金) 5校時(1:55～2:40)
- (3) 場所 八幡小学校 あおぎり教室
- (4) 本時のねらい

- ・電卓を使ったり，買い物の計画を立てたりして，1000円以内で買い物模擬体験をし，買い物を振り返ることができる。

本時の支援

- ・本人が困って投げ出さない限り，できるだけ自力解決できるように楽しく活動できるように支援していきたい。

(5) 展開 (第1次第3時)

流れ	学習活動	教師の指導・支援	備考
導入 5分	1. あいさつをする。 ・号令をかける。(後ろの先生たちに向かって) 2. 前時の活動について振り返る。 ・「買い物の時, 正しくお金が出せるようになるう」 3. 今日の活動について確認する。 ・「①お店に行く前に買う物を決め, 計画を立てる。② 買い物をする。③まとめをする。」	・目標を黒板掲示する。 ・場の設定としてはスーパーの店内のいろいろなコーナーに物が置かれていてそこからいろいろな買いたいものを選び, 買い物かごに入れてレジでお金を出すという模擬体験をする。	
展開 35分	4. 1000 円で買い物をする。 5. ① お店で売っているものを確認しよう チョコバナナクレープ250円, いちごクレープ300円, 焼き鳥つくね 1 本150円, 焼き鳥ねぎま120円, ストラップスイカ 259 円, ストラップメロン 159 円, ストラップアストロ 299 円, ストラップキュウリ 99 円, ポテトチップス 99 円, ポッキー139円 ② まず, 自分で買い物を好きなようにする。 ③ 今度は教師が買い物をする。児童はレジ係。 「1000円で買い物をしよう」 ④ 1000円を超えないで買い物をするにはどうすればいいか考える。 ・電卓を持ち, 計算しながら超えないようにする。 ・買い物計画を立てる。	・一巡してどんなものが売っているのか確かめてくる。 ・本人の好きなように買い物を体験させる。ここでは1000円を超えても構わないので好きに買い物をさせる。どんなことに気をつけて買えばいいのか考えさせる。 ・わざと多めに買って間違う。どうすれば1000円を超えないで買えるか、考えさせる。 「1000円で買い物をしよう」を提示する。	品物 電卓 ・買い物シート

<p>展開 35分</p>	<p>⑤ 買い物計画を立てる。</p> <p>⑥ 買い物計画にしたがって買い物をする。</p> <p>例</p> <p>チョコバナナクレープ 250円 焼き鳥 つくね2本 300円 ストラップ 299円</p> <p>⑦ 買い物のまとめをする。</p> <p>例</p> <table border="1" data-bbox="304 674 708 871"> <tr> <td>バナナクレープ</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>焼き鳥 つくね2本</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>ストラップ</td> <td>299</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> </tr> </table> <p>あまったお金 121円</p>	バナナクレープ	280	焼き鳥 つくね2本	300	ストラップ	299	合計	879	<p>・ただし、電卓で確かめながら、買い物をしていくということがよいということになれば、その方法に従って買い物をする。</p> <p>・必要に応じて買い物計画カードを渡す。</p> <p>・時間があるようだったら、本人のやる気に応じてもう一度、買い物模擬体験をさせてあげる。</p>	
バナナクレープ	280										
焼き鳥 つくね2本	300										
ストラップ	299										
合計	879										
<p>まとめ 5分</p>	<p>6. 活動のまとめをする。</p> <p>① 今日学習したことを振り返る。</p> <p>・1000円で買い物ができて、いくら残ったか確かめることができてよかった。</p>	<p>・楽しく買い物ができたか振り返る。</p> <p>・買い物がうまくいった時はどんな時だったか、振り返らせる。また、うまくいかなかったときはどんな時だったか、振り返らせる。</p>	<p>・振り返りカード</p>								

(7) 評価の観点

- ・考えながら買い物模擬体験をし、買い物を振り返ることができたか。
- ・楽しく買い物模擬体験ができたか。

(8) 授業の視点

- ・教師の支援や手立ては適切であったか。
- ・本時のねらいは達成できたか。

III 授業記録

第一次「買い物に慣れよう」では第一時に飲料自動販売機の飲み物をいろいろな金種で買えるか、予想を立ててみる活動を行った。130円のジュースを児童は10円玉だけで買う方法と、500円玉を入れておつりを370円もらう方法、それから100円と50円で20円おつりをもらう方法を考えた。感想では10円が10個で100円だということが分かったと書いている。

第2時では飲料自動販売機の飲み物をいろいろな金種で買えるか、試してみるという活動を行った。10円玉13個で買う活動では10円を9個入れた後、もう一つ入れると、100円になるところが本人には驚きの

ようだった。学習感想では「自動販売機で買い物をして楽しかった。おつりが出てきて数えられた。50円と10円の計算ができた。」ということです。

第3時は研究授業である。暑い日ではあったが、Aさんも集中し恥ずかしがらずに、授業をがんばりきった。「1000円で買い物をしよう」目標を出すタイミングは授業途中の予定だったが、先に出してしまった。私の読みの中では「それほど、気にしないで自由に買うのかな。」と思っていたが、一回目の買い物から1000円を超えないように気にしながら買っていたので、やはりタイミングを逸してしまった感はある。

私が今度はAさんと、交代してレジ係と、買い手とチェンジして、買い物ごっこをした。レジのAさんの所に行き、品物を電卓で、Aさんに計算してもらい、レジ係から言ってもらうことを試みた。私はわざと1000円を超えるように間違えた。そうすると、電卓で計算して超えていることを指摘できても、品物を返品するまでの指示は出せなかった。品物を返すことを教えた。今度はAさんにやってもらうことにした。作った焼き鳥のレプリカよりも、本物のポテトチップスやポッキーは食いつきがよく嬉しそうに活動していた。最後にもう一度、買い物をさせたところ、やはり本物のポテトチップス



やポッキーを嬉しそうに買っていた。電卓を使って足し算していきながら、1000円でおつりも考えてもらうことができた。学習感想では「大勢の先生の中で買い物ができてよかった。早くいちやまに買い物に行きたい。」。

第4時では今度行く予定のスーパーマーケットの広告から買いたいものを選んで、買い物計画を立て練習してみる活動をおこなった。広告の中から特売品のドンタコスを選んだ。広告の中には買いたい物の値段は書いてないので大体の予想で、バナナ100円、ソーセージ200円、から揚げ300円などを予想して買い物を予想した。

第二次「買い物に行ってみよう」第1時ではスーパーまでの行程を考え、バス停の時刻表から何時にどこから乗ったらよいか、決めさせた。帰りは学校の取り計らいでタクシーを利用してもよいことになった。バスに乗るときの生活経験を聞いたりしながら、マナーや支払い方を確認した。乗るときには「おねがいます。」、降りるときには「ありがとうございました。」を言って100円を入れるなど確認した。

第2時では市バスを利用して駅まで行き、スーパーで家から頼まれた買い物をし、市バスを利用して駅から学校へ帰ってくるという活動を仕組んだ。しかし、実際はタクシーを帰りは利用することとなった。学習感想では「また行きたい。行ってみたい。」とのことだった。買い物の時に電卓を使わせるのは有効だったが、レジで余計なお金まで出してしまうのは問題である。学校でも模擬体験をもう一度させて理解させていくことが必要だと思う。

第三次「買い物に行ったことを作文でまとめてみよう」第1時ではビデオや写真などから、そのときの生の様子を振り返り、作文表現に役立て買い物に行った時のことを作文で表現してまとめる活動を行った。以下に示すのが児童の作文である。



児童の作文「買い物」

九月五日本曜日、5・6校時に、ぼくと先生でいちやまマートに買い物に行きました。ちゃんとお金をはらえるかどうか、学習しに行きました。

給食を食べ終わって、ぼうしを保健の先生からかりて出発しました。

歩いて下市川のバス停に行きました。バスはなかなかすぐに来なかったです。バス停の時こくの読み方をべんきょうしました。

「どの時こくにのっていくの。」

と先生が言いました。

ぼくはすぐにこたえられずにいましたが教えてもらってわかったから

「一時四十一分。」

とこたえました。

なかなかバスは来ません。すると、先生が

「おそいね。」

と言いました。しばらくすると、

「来た。来た。来た。」

と先生が言いました。

ぼくは手をあげると同時にバスに近寄って行きました。

「おねがいします」を言うのをわすれてそのまますわってしまいました。バスにはお年寄りの方が四人乗っていました。ぼくはバスに乗ると、間もなく鼻血が出てしまい困りました。ティッシュがないので上を向いていました。

鼻血がおちつくと、外のけしきが見えました。ぼくの入院していたかのいわ病院が右手に見えました。しばらくすると、山梨市駅に着きました。

バスからおりるときに、百円を入れて、

「ありがとうございました。」

と言っておりました。歩いていちやまに行きました。いちやままで、近道して行きました。

「この道はぼくがいちやまに行く時、よく使っている道だよ。」

と先生におしえてあげました。いちやまに着いたら最初に無料のむぎちゃをのみました。それから、メモを見ながら買い物をはじめました。

まず、ソーセージ二百四十八円を買いました。そして、ランチパック百二十八円を一個買いました。買っている最中にいちやまのテーマソングが流れて行きました。

次に、からあげ三百円を買いました。そのあと、バナナ九十九円を買いました。電卓で計算したら七百七十五円でした。

広告のとくばいのドンタコス二個で百十八円でした。電卓では八百九十三円になりました。最後に、チョコ七十九円を買いました。電卓に、七十九円たしたら、たしたら九百七十二円になりました。

このあと、レジに行きました。ぼくの番が来ました。かごを出したら、お姉さんがてぎわよく機械に品物をかざした入力して行きました。

「ピッ。ピッ。」

と音がしました。

ぼくは自信がなかったので、百円玉二個と千円札を出しました。

そしたら、店員さんが、

「千円でだいじょうぶだよ。」と言って二百円を返してくれました。そのあと、レシートとおつりをもらいました。今度は買ったものをてさげぶくろにつめかえました。

いちやまを出ると山梨市駅に向かいました。まだ時間があるので、万力公園に行くことにしました。万力公園に着くと、鼻血が出てしまいました。公園のトイレの紙を鼻につめこみました。

しばらく、歩くと、

「ピョッ。ピョッ。」

と声がありました。行ってみると、インコが鳴いていました。

「ミーン、ミンミンミー。」とせみの鳴く声も聞こえました。

そのあと、銅像のほうへ行きました。そして、お茶を買ってのみました。

そして、タクシーで学校まで帰りました。また行きたいです。

IV 授業後の研究会の内容

○ 授業者の反省

- ・第一次第1・2時に、自動販売機で飲み物を実際に買う経験をしたことで、児童の数量把握の実態を把握することができた。

- ・始めに、教師が間違った買い物(1000円を超える)をしてみせたので、1000円を超えない買い方を意識させることができた。

- ・たし算で合計金額を求める学習で、位取りの理解(空位の読み方)の未定着部分がはっきりしてきた。

- ・電卓の使い方はよくできている。

○ 研究討議より

- ・1000円という金額の設定の意図は？・・・第二次の「家の人に頼まれた買い物をしよう」につながるように考えた。

- ・値段の設定は139円・99円など細かいものもあるが、実際に想定したのか？・・・次時のスーパーでの買い物を考え、実際のスーパーでの値段や修学旅行で買ったお土産の値段を使った。計算は難しくなるが、実生活での活動を意識した。

- ・電卓はどのくらい使用しているか？・・・家庭で利用していることが多いようだが、まだ、十分には慣れていない。ACやCについて、直前に指導した。

- ・単品での買い物はできるか？・・・小銭を使った買い物をできるが、5円玉や50円玉が入ると難しい。

○ 本時の目標は、達成されたか。

- ・1000円を超えないで買い物をすることを、児童が振り返ることができていたと思う。

- ・小銭を(おつりを使う)を使わせることが難しい面もあると思うが、それを課題にしていけばよいと思う。

- ・生活力と結びつけることも大切であるが、国語や算数のねらいにどう迫っていけばいいのか。教科のねらいに対しての支援はどうあるべきなのか。

○ 本時の指導で児童は生き生きと活動できたか。

- ・意欲が出るような品物がたくさん並んでいた。買い物が現実に近い設定になってよかった。

- ・電卓を使うことも大切であるが、だいたいいくらか見積もることも現実には必要になってくる。児童の実態を考えると、見積もるという思考過程は難しいが、次のステップとしたい。
- ・本時は電卓が有効で、本人もやる気を持って取り組んでいた。

指導助言(甲府かえで支援学校 伊波教諭)

- 児童が生き生きと活動できる具体的な支援の方法について
 - ・児童は自分から進んで活動していたので、教材や設定が合っていたと思われる。今後、プラスαが考えられる。
 - ・生活単元のねらい・目標はどこにおけばよいのか。算数のねらいも踏まえた支援も考えられると思う。
 - ・筆算などの計算で求めさせてから、電卓で確認すると思っていた。
 - ・実際に家で頼まれた買い物とは異なり、「千円でぎりぎりまで」という買い物をしたのではないか。頼まれた買い物をする所で買い物を意識することができると思われる。
- 教科領域を合わせた指導の具体例、日常生活の指導と生活単元学習の相違について
 - ・生活単元学習は指導形態である。未分化な子どもに、日常生活の中で力をつけさせていくために生活単元を設定する。
 - ・日常生活の指導は、歯磨き・手洗い・入浴など。
 - ・枠がないのが特別支援教育の特色なので、児童の実態に応じて、特別な指導形態を設定して良い。枠の設定(教科にするか、生単にするか、日常生活の指導にするか等)は、教師側にわかりやすくするため。たとえば、感想を書くといっても、教師側のねらいによって、教科領域が異なってくる。
 - ・児童の実態をまず、把握してから、生単や自立活動の内容(仮説)を考えていく。特別支援学級は児童の実態に応じてまずは下学年の教育内容、そして、特別支援の教育内容。必ずしも、自立や生単を入れる必要があるわけではない。ただし、情緒学級は自立を取り入れ、情緒の安定を図ることが必要。
- 児童の実態把握の方法について
 - ・実際にやってみて把握し、課題を設定する。・・・この繰り返しである。
 - ・指導方法や活動内容は、やりながら変えていってよい。次のメニューを実態に応じて考えていくことが大切。

V まとめ

「買い物をしよう」生活単元学習として、設定したのは修学旅行の出来事がきっかけとなった。買い物だけを取り上げるだけでなく、作文に残せたことは成果だと思う。振り返って、どこがうまくできなかったか、ビデオ等で振り返ったり、書くことによって振り返ったりすることができてよかった。

自動販売機での硬貨を入れるときのデジタル表示が変わっていく時の驚きの様子など、我々大人が当たり前のように感じているものを子どもは新鮮に感じ取っている。

今回の買い物ではお金の出し方に不安があつて、余計に出してしまうことがみられたが、自動販売機での硬貨の使用については授業前に比べれば、できるようになったと思う。

買い物は一度だけでなく、できればあと一回くらい設定したい。